

咀嚼機能制御補綴学実習（木本克彦）

Training of Prosthodontics and Oral Rehabilitation (Katsuhiko Kimoto)

キーワード

- ① 歯科補綴学
- ② 口腔インプラント学
- ③ デジタル・デンティストリー
- ④ 臨床研究
- ⑤ 医科歯科連携

関連する学位授与方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤

関連する教育実施方針

- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑥

授業概要

歯の形態異常や実質欠損あるいは喪失によって引き起こされる咀嚼機能障害に対して、人工ならびに生体材料によって口腔の形態および機能と外観を回復し、顎口腔系の健康維持を図るための補綴治療および予防法について理解を深める。本実習では、咀嚼機能を制御するクラウン・ブリッジ・インプラントの補綴治療の術式やそれに関わる新規材料の選択、さらには医科歯科連携による咬合咀嚼刺激による全身疾患の関連について実習する。また、日常の臨床現場から生まれる疑問、すなわちリサーチクエスチョン(RQ)を設定し、研究計画の立案実習も行い、咀嚼機能制御補綴学の専門知識を実技を通じて高度化することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

咀嚼機能制御補綴学は、失われた顎口腔機能を回復し、健康に過ごすための予防医療の構築までを包括する学問であり、実習を通じて必要な知識・態度・技能を包括的に修得することを目標とする。

授業計画

- ① 歯科補綴学研究計画立案実習 12コマ
臨床を通じて、問題発見能力を育成すると同時に研究計画の立案の基本を教授する。
- ② クラウン・ブリッジ補綴学実習 12コマ
歯周治療を包括したクラウン・ブリッジ補綴治療の高度な術式と手技を教授する。
- ③ 口腔インプラント治療学実習 12コマ
インプラント治療の基本的な手技を教授する。
- ④ デジタル歯科医学実習 12コマ
デジタル歯科治療の術式と基本的な手技を教授する。
- ⑤ 医科歯科連携実習 12コマ
医科歯科連携を通して咀嚼と全身疾患に関する研究計画の立案を教授する。

実習担当教員： 木本克彦 齋田牧子 川西範繁 本間優太 足立拓也

教科書および参考書

咀嚼機能補綴学実習 配布プリント

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

実習の前には、実習内容を指導教員に確認をし、理論を熟知して実習に臨むこと。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 問題を発見し補綴的研究計画の立案ができる。
- ② クラウン・ブリッジ補綴治療の理論を理解し実践することができる。
- ③ 口腔インプラント治療の理論を理解し実践することができる。
- ④ デジタル歯科治療の理論を理解し実践することができる。
- ⑤ 医科歯科連携研究を理解し研究計画の立案が出来る。

評価

| 試験 | 小テスト | レポート | 成果発表 | ポートフォリオ | 口頭試問 | 実技 | その他 |
|-----|------|------|------|---------|------|-----|-----|
| 20% | 0% | 50% | 0% | 0% | 0% | 30% | 0% |

評価の要点

- ・試験は、授業計画で行った実習の知識の理解度を判定する。1回20%
- ・レポートは、授業計画の5項目について課題を提出する。10%×5回=50%
- ・実技は、授業計画の5項目についてプロダクト達成度を判定する。6%×5回=30%

理想的な達成レベルの目安

咀嚼機能制御補綴学実習の理想的な達成レベルは80%以上とする。